

想 作 天 文 学 [Ⅷ]

レチクル座

UFO の発見例はブラジルやアルゼンチンなど南米大陸に多い。これにはある理由がある。

十数年前、ブラジルの草原を走るハイウェイで、農家の夫婦が何者かによって車から拉致され、二、三日後に100 マイルはなれた地点で失神状態で発見された。

病院で意識が回復すると、ピカピカ光る壁にかこまれた部屋に軟禁されていたこと、壁一面に大きな図画があり、大小の点が適宜に直線でつないであるのを思い出した。

催眠術で、二人の記憶からこの図を再現すると、見たこともない星図のような配置である。ある高校の数学の先生が、これを丹念にしらべ、さまざまな方向・距離かの投影を試み、これがレチクル座ツェータ星から見た星図であることをつきとめた。ツェータ星は ζ^1, ζ^2 とよばれる二重星で、両星のまわりを「8字形」にまわる惑星から、運動エネルギーを節約して宇宙船を発射することができる。つまりこの二重星の惑星が UFO の故郷だ。

レチクル座といわれても、北半球の住民には、それがライカユが創設した南天星座のひとつという以外なじみはない。星図上では大マゼラン雲の右上にある小星座で ζ^1, ζ^2 星はその星座の西縁にある。Yale の Bright Star Catalogue での番号は 1006 及び 1010 番で、赤経・赤緯は

$\zeta^1: 3^h15^m36^s, -62^\circ57'$
 $\zeta^2: 3^h16^m02^s, -62^\circ53'$ (1900.0)

である。

等級、スペクトル型、視差、視線速度の値は

$\zeta^1: 5.53, G2V, +7.106, +12 \text{ km/s}$
 $\zeta^2: 5.23, G1V, +.097, +12$

しかもお互い同士 *cmp* (common proper motion) と註記されている。

10 パーセクの彼方から、5等星のこの黄色の星(太陽)めざしてはるばると旅をつづける異星人のいじらしさ (!!)

赤経・赤緯の値の差から、両星の角距離は4.8という大きな値で、視差の値を使って立体的に相互距離を測定すると、0.89 パーセク = 2.9 光年になる。ケプラーの第3則でとくと、この二重星の公転周期は9000 万年になる。だから「8字形運動」の惑星などとても難かしい存在ではないかしら。(?)

しかしあのオズマ計画の第一候補である鯨座タウ星 (τ Cet) と同じく、この二重星の両星のスペクトル型が太陽に似た G 型であることと、「レチクル」というなじみの少ない小星座をもってきたのは一番泣かせる点である。

テレビの幕切れで「本当にあった話なんですよ」と真顔で何度も念をおした対談相手の UFO 学者の顔を今でも思い出す。
 [GOLOXY]

◇ 8 月 の 天 文 暦 ◇

日 時	記 事
1 19	月 最遠
5 8	望
8 6	立 秋 (太陽黄経 135°)
9 21	天王星 留
12 20	下 弦
17 11	月 最近
19 12	朔
23 20	処 暑 (太陽黄経 150°)
26 19	上 弦
29 9	月 最遠

◇ 8 月 の 日 月 惑 星 運 行 図 ◇

